

年頭所感



技術士からのマニフェスト

(社)日本技術士会北海道支部 支部長
技術士（建設／総合技術監理部門）

齊藤 有司

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、政権が変わり政治経済が根本から大きく舵を切った年と言っても過言ではありません。その結果、産学官連携戦略展開事業や理科支援員配置事業など、我々が取り組んできた科学技術の世界にも事業仕分けが入り、予算が認められない可能性が出てきました。一番の心配は、我々、科学技術者として社会的役割や貢献に展望が開けないことです。科学技術立国を標榜するわが国がこんなことで良いのかという思いもあります。この2月号が発刊されている頃には、復活が認められているかもしれませんが…

また、環境面では、近年、地球の温暖化がひたひたと進行しています。昨年末、デンマークのコペンハーゲンで開催されたCOP15では、各国の思惑の違いが明らかになりました。特に、発展途上国各国から、経済成長に密接な関係のある温室効果ガスの削減に対し、先進各国の技術的援助費用拠出が強く求められ、目標設定が先送りとなりました。先進各国も、地球規模での削減のため、自国の排出抑制を強力に進めることを求められ、日本がいち早く掲げた1990年比マイナス25%という高い削減目標も一定の評価があったものの、効果的には働かなかったきらいがあります。

さて、今年は寅年、語源からは草や木が芽生えてくる年であることが分かりました。新年早々後ろ向きではなく、少し無理をしても明るい一年を夢見たいものです。最近、マニフェストなる言葉が、そこ此処に氾濫しております。本来は、声明・宣言と

いう意味ですが、日本では、選挙公約という意味で使われることが多くなってきました。私は、構想段階ですが技術士からのマニフェストも有りかなと思っております。寅年の初夢として聞いてください。

平成19年1月1日、「技術士プロフェッション宣言」なるものが(社)日本技術士会から発信されました。これは、技術士がプロフェッショナルとして自らの行動原則を規定し、社会に貢献することを宣言するものでした。

技術士からのマニフェスト（宣言）は、それとは違い、私たち技術士が社会の持続的発展のため、科学のあらゆる英知をコーディネート（調整・統合）して、製品開発やシステム開発などに寄与し、次世代に明るい夢や希望を与えることを人々に宣言することです。

今、地球規模の経済問題や環境問題、更に人口問題が人類の未来に大きな影を落としています。また、日本では、少子高齢化や地域間格差などが今後の大きな問題になってくることは疑う余地もありません。北海道では倒産や雇用不安など、全国水準に比べても更に厳しさが増し、地域一丸となって取り組まなければならない問題が山積しています。

今こそ、技術士は、産学官のコーディネーターとなって環境技術産業の支援や農水産業の安定経営、さらには観光産業の振興などに活躍すべき時と考えます。技術士からのマニフェストは、とりあえず北海道支部から発信したらどうかと思います。最後になりましたが、会員、協賛会員の皆様の、今年一年のご活躍をお祈り申し上げます。